

木原副大臣挨拶 （「日韓国交正常化50周年記念シンポジウム」）

日韓国交正常化50周年記念シンポジウムの開催に当たり、榊原 定征（さかきばら・さだゆき）日本経済団体連合会会長、許 昌秀（ホ・チャンス）全国経済人連合会会長、柳 興洙（ユ・フンス）駐日韓国大使館特命全権大使、額賀 福志郎日韓議員連盟会長を始めとする各界からの御参加の皆様に、心からお喜びを申し上げます。

また、本日は、これまでの日韓の経済関係を支え、日韓経済の発展に御尽力を頂いた両国の経済人の皆様と共に、国交正常化50周年を共にお祝いできることをうれしく思います。

本シンポジウムを主催された、日本経済団体連合会と韓国の全国経済人連合会は、昨年12月にも、トップ同士の懇談会を開催するなど、両国の経済界の交流やビジネス面での連携をリードしていただいています。このような日韓の経済界の緊密なつながりは、政府といたしましても、大変心強いものであります。

1965年の国交正常化以降、日韓両国は様々な分野で交流・協力の幅を拡大させてきています。

特に、経済交流においては、1965年には約800億円であった両国間の貿易総額は、2014年には約9兆円と、この50年弱で100倍以上に拡大しました。また、年間1万人に過ぎなかった、日本と韓国の間の人来的往来も、年間500万人を超える水準に達しています。こうした二国間での直接的な関係強化はもちろん、現在では、第三国における日韓連携や、地球温暖化対策などグローバルな課題に関する協力など、協力の舞台を世界に飛躍しています。

このような両国の経済関係の発展は、多くの方々の不断の努力によって築かれてきた相互信頼と相互理解に基づくものであり、その担い手となってこられた日韓両国の経済界の皆様の御尽力に、改めて敬意と謝意を表したいと思っております。

こうした日韓間での永年にわたる交流と協力の歩みを基に、アジアにおけるかけがえのないパートナーとして両国関係の新たな未来を共に開き、アジアと世界の平和と発展に貢献できるよう、日韓両国が次なる100年に向けてそれぞれ更に努力していくことが重要です。

政府としても、3年半ぶりに開催が予定される日中韓サミットを始め、あらゆる機会を通じて協力関係を深めていきたいと思えます。

最後に、本日ここにお集まりいただいた皆様の御健勝と、「日韓国交正常化50周年記念シンポジウム」の御成功、そして日韓両国の更なる御発展を祈念して、私の挨拶に代えさせていただきます。

(了)